

ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市

第2次下野市総合計画（基本構想・前期基本計画）

市では、合併直後に市として初めての総合計画（計画期間H20～27）を策定し、市の基盤づくりとして推進してきました。

合併後の10年間には、地方分権の進展や少子高齢化の進行、さらに東日本大震災をはじめ頻発する自然災害など、社会情勢の変化は市政にも大きな影響を及ぼしており、このような状況に柔軟に対応した新たな総合計画の策定には、これまでの市政の成果や課題の検証はもとより、幅広い分野と世代からのニーズを計



子ども未来プロジェクト

画に反映することが重要であると考え、市民意識調査や中高生アンケート、中学生で組織する子ども未来プロジェクトや市民及び関係団体懇談会、さらに各種団体の代表者や市民で構成する総合計画審議会での審議を重ね、第二次となる総合計画を策定いたしました。

基本構想

基本構想は、平成28年度から10年間を計画期間とするも



市民懇談会



総合計画審議会

ので、変動する社会情勢を踏まえ、各種調査結果や懇談会などからのご意見や提言等を市の強みと弱みに整理して分析し、2つの「理想的なまちの姿」を導き出しました。

1つ目は、市民意識調査結果で満足度が高い医療環境、都市と農村が共存した自然環境、平坦で自然災害が少ない地勢、園芸作物を中心とした農業などの「強み」を活かした「市民の幸福感が高まるまちづくり」を目指すものです。

2つ目は、下野薬師寺や下野国分寺等の市内に多数点在する歴史文化資源、北関東自動車道、国道4号等の交通便利性など、多彩で優れた地域資源をさらに磨き上げ、高齢化に対応した健康づくり、新

【将来像】
ともに築き 未来へつなぐ
幸せ実感都市

～人・自然・文化が織りなす 知恵と協働でつくる下野市～



たな産業と雇用の創出、人口減少の歯止めにつながるシテイセールズ、地域コミュニティの向上を図り「人や企業に選ばれるまちづくり」を目指すものです。

この2つの理想的な姿から最終的に「ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市」を将来像に掲げました。

また、豊かな地域資源を活かし、市民との協働を進め、多くの人々が集い交流するまちづくりを進めていくという本市のまちづくりの理念を込め、「人・自然・文化が織り

なす 知恵と協働でつくる下野市」を副題としました。

さらに、将来像の具体的な成果指標として、市民意識調査による「幸せだと感じている市民の割合」を、現状の75%から80%に向上させる目標を設定いたしました。

将来像の実現に向けた具体的な取組については、行政分野を「保健福祉」、「教育文化」、「生活環境」、「産業観光」、「都市基盤」、「市民協働」の6分野に分け、施策大綱となる6つの基本目標を掲げました。